
ノリア & ドロシーの支援？会話

のりりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノリア&ドロシーの支援？会話

【Nコード】

N1978V

【作者名】

のりりん

【あらすじ】

ノリアとドロシーの支援（なのか？）会話です。

ノリア&ドロシー（支援？C）

ノリア「うわっ！」

ノリア、上下に揺れる。

ノリア

「危ねえ……。……何なのこの矢は？」

ドロシー、画面に現れる。

ドロシー

「すみません。私の矢はどこですか？」

ノリア

「あんた！？あたしに矢を放ったのは？」

ドロシー

「わざとじゃないです！すみません。」

ノリア

「あんたが探してんのはこいつか？」

ドロシー

「あっ、それです。……返して下さい。」

ノリア

「言われなくったって、返してやるよ。
次はあたしに向けて飛ばさねえよう、
気を付けろよな。」

ドロシー「はい、すみません。」

ノリア「じゃあな。」

ドロシー

「待って下さい。名前を知りたいです。」

ノリア「名前を知りたいなら、あんたから名乗りな。」

ドロシー「私はドロシーです。」

ノリア

「あたしはノリアだ。よく覚えろよ。」

~~~~~

ノリア&ドロシー（支援？B）

ノリア「ドロシー、あんたは顔が全然、  
可愛くねえな。あたし、封印の剣を買う  
前に『ドロシーって、ノルンみたいに  
ポニーテールをされていて可愛い子かな。』って、  
思っていたのにさ  
ぞかしがっかり  
だったわ。」

ドロシー「そうですか……、私も自覚しています。どうやったら、

可愛くなれるの  
かなって。私、本当はシスターに  
なりたかったのです。」

ノリア「シスターになりたかったのね。  
でも、何故アーチャーになつたんだ？」

ドロシー「神父様を護衛するために  
なりました。神父様は僧侶ですので。」

ノリア「神父様ってどんな人だい？」

ドロシー

「神父様はすぐ私から離れて女性に声を  
かけまくって……本当に困ります。」

ノリア

「あんだ、苦勞人だね。悔しかったら  
あたしみたいに可愛くなつて見る！」

ドロシー「どうすればいいのですか？」

ノリア「そうね……、まずノースリーブは止めな……！……そんで髪  
は長くして、  
ポニーテールにする……、そうすれば  
今より、もっと可愛くなるかもよ。」

ドロシー

「そうですか？実際にしてみます。」

~~~~~

ノリア&ドロシー（支援？A）

ドロシー

「ノリアさん。私には無理みたいです。」

ノリア「あっそー！じゃあ、あんたは一生可愛くねえままで終わりだな。」

ドロシー「どうしても出来ません。」

ノリア「やっぱ、あんたは可愛くねえ方がお似合いだな。」

ドロシー「そうですね。」

ノリア

「髪は出来ないとしても、服は半袖の茶色でも着ている！じゃあな。」

ドロシー「分かりました。半袖を着ます。ノリアさん、ありがとうございます。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1978v/>

ノリア&ドロシーの支援？会話

2011年10月9日02時52分発行